

再びその人らしい生活に

ふれあいひろば

2022年 夏号 Vol.101



愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 リハ技術部 教育研修科のご紹介
- 2面 【連載】セラピストだより⑩ / 膀胱ボトックスについて
- 3面 地域クリニックとの連携の中で⑤
- 4面 患者さまだより⑥ / 連載 訪問リハビリテーションだより

リハ
技術部

教育研修科のご紹介



(図1) off-JT 新人研修「感染予防」
講師：認定感染制御実践看護師/特定看護師 市橋室長

愛仁会リハビリテーション病院には、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、約190名所属しており、これは日本のリハビリテーション専門病院の中でも屈指の規模だと思われます。そして、毎年20名前後の新人療法士を迎えることから、新人を中心とした療法士が、医療従事者として、専門職として、最大限の能力が発揮できるよう支えることが私たち教育研修科の役割です。

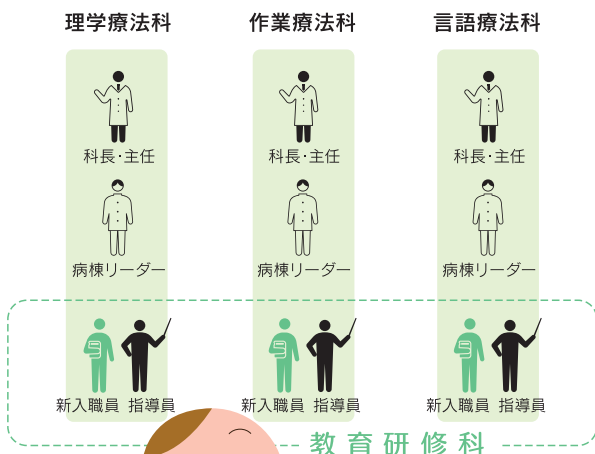
教育方法は、off-JT (off-The Job Training: 集合研修など) とOJT (On

The Job Training: 治療場面での技術・臨床姿勢の指導) に分けられます。Off-JTでは、病院に入職した全ての職種(看護師や薬剤師、医療ソーシャルワーカー)を対象とした集合研修の企画・運営を行います(図1)。また、愛仁会には病院や介護保険施設などいくつかの施設がありますが、新人療法士はどの病院へ入職したとしても、一定の知識が備えられるよう共通の研修を受講します。わたしたちは、この法人内の新人療法士全員を対象とした研修も担っています(図2)。OJTでは、新人療法士1名に対し、同職種の指導者が1名配置され指導する手法が一般的です。ここに加えて、教育研修科が職種を越えて全ての新人療法士とその指導者をサポートする、これが当院ならではの特徴です(図3、4)。

教育研修科のスタッフは全員が療法士です。新人療法士の育成を通して、患者さまにより良い医療・サービスを提供したいという思いを持って、日々努めております。

文責：教育研修科科长 貞末 仁美

(図3) 教育研修科の役割



(図4) 移乗動作の指導 他職種への指導も行う
※写真は模擬場面を設定して撮影

(図2) 新人療法士が配属される法人内の病院

高槻エリア

病院2・クリニック1
老健2・在宅1施設



高槻病院



愛仁会リハビリテーション病院
教育研修科

吹田・豊中・宝塚エリア

病院1・老健3施設
豊中/宝塚愛和会



井上病院

千船エリア

病院3・老健2・在宅2・特養1施設



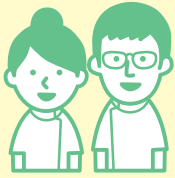
千船病院



明石医療センター



尼崎だいまつ病院



当院で実施している

作業療法科 田邊 晃平

認知症に対する作業療法

2019年の国の発表では2025年には認知症者は700万人前後になると予測されています。また、認知症予備軍（軽度認知障害MCI）の人は2018年の時点で500万人いるとも言われています。今回は当院の

作業療法で実施している認知症に関する対策を紹介します。

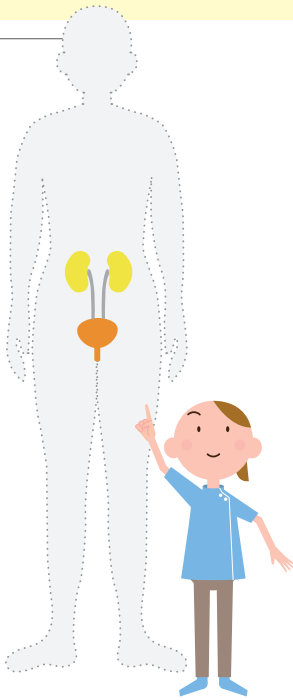
まず、入院時と退院時に認知機能の評価を行い、入院期間中に認知機能に変化がなかったか客観的に示します。また、認知症の中核症状によって起こる不眠、不穏などの行動・心理症状（BPSD）の予防のために生活リズムを作る、カレンダーを付ける、人との交流の場を作ることを行っています。

交流の場は「ニコニコクラブ」と呼んでおり、週に1回歌やゲームを集団で行います。また作業療法では手芸などその人にとって楽しみや馴染みのある活動を提供し、日中の余暇時間を充実して過ごしてもらえるように提案もしています。入院期間中の時間を少しでも楽しく充実した時間になるように作業療法士が全力でサポートします。



神経因性膀胱に対する

ボツリヌス療法について



当院では脊髄損傷・障害の患者さまのリハビリテーション治療を実施していますが、多くの患者さまに下部尿路機能障害（神経因性膀胱）があります。排尿の管理目標は腎障害や症候性尿路感染の防止であることは言うまでもありませんが、患者さまにとっては日常生活の重要な行為であり、尿漏れや頻尿等によるQOL（quality of life、生活の質）の低下にも留意しなければなりません。

ボツリヌス療法は筋肉を緩める薬を膀胱内に直接注射し、尿漏れの回数が減る、頻尿が改善する、突然起こる強い尿意が減るといった効果が期待できます。内服薬や生活指導で効果が不十分な患者さまに対して有効な治療法です。当院では実施できないため、泌尿器科専門医のいる高槻病院に紹介し、適応を判断していただいで施注してもらっています。

神経因性膀胱により尿失禁や頻尿でお困りの患者さまはいませんか？

当院「脊損外来」にて問診の上、尿流動態検査の実施やQOL評価を実施し、高槻病院泌尿器科へご紹介することができます（高槻病院では尿流動態検査はできません）。

残尿があるにもかかわらず導尿をせず過ごしている患者さまではボツリヌス療法治療により導尿が必要になる可能性があります。もともと間欠的に自己導尿をされていた患者さま方は、失禁・導尿回数が減ったと喜ばれています。数か月に1度の注射で治療を行いますが、継続治療を希望されています。

診療部 松岡 美保子



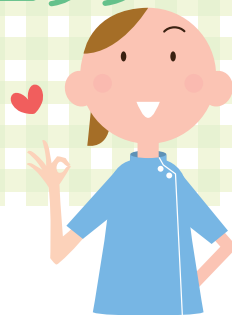


整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科

とみた整形外科クリニック

〒569-1116 高槻市白梅町4-13
ジオ高槻ミュージズEX 3F

TEL.072-691-1150



今回は高槻市白梅町のジオ高槻ミュージズEX内にある、とみた整形外科クリニックの富田 誠司先生にインタビューをさせて頂きました。

開業された経緯

大阪医科大学付属病院(現大阪医科薬科大学病院)、大阪府済生会茨木病院などで約20年間勤務をされ、アメリカへの留学も経験されてきました。

開業を決めたきっかけとして、今まで培ってきた経験や知識を活かし、地域に密着し、患者様と近い距離で向き合えるような自分の理想のクリニックを創りたいという強い想いもあり、開業するなら今しかないと思われて令和2年2月にとみた整形外科クリニックを開業されました。

クリニックの特徴

勤務医時代は20年以上、腰痛や腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症などの脊椎疾患を専門に治療に携わっておられましたが、開業後は骨粗鬆症、リウマチ、リハビリテーションなどにも対応しておられ、整形外科全般の治療を行っておられます。

今後はスポーツをされている若い学生さんも対象とした一般外傷、スポーツ外傷にも力を入れていきたいとのことでした。

これまでの経験と知識を活かして的確な診断と治療方針のアドバイスも行い、手術が必要になった場合は近隣の医療機関に紹介されて迅速に連携し、富田先生ご自身が出向かれて手術を担当されております。

手術を受けられた患者様をリハビリテーションまで診ることができ、術後のリハビリテーションを行う患者様が多いこともクリニックの強みであるとのことでした。

リハビリテーションでは理学療法士5名、作業療法士1名、非常勤2名とセラピストも多く在籍しており、症状の緩和だけでなく、症状の原因の根本改善を目指しておられ、物理療法だけでなく、患者様の状態や幅広い症状にも合わせた運動療法も積極的に行っておられます。

また、リハビリの継続を希望される要介護・要支援の患者様のニーズにもお応えするため、令和4年6月から介護保険による短時間通所リハビリテーションも開始され、最善の治療ができるように努めておられます。

◀富田 誠司院長



*診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
8:30~12:00	●	●	●	—	●	★
16:00~19:00	●	●	●	—	●	—

*休診日:木曜・土曜午後・日曜・祝日 ★土曜午前は8:30~12:30

*アクセス JR京都線「高槻駅」徒歩2分



駐車場/阪急パーキング館(有料)2F直結

専門分野である脊椎疾患だけでなく、さまざまな疾患にも患者様の症状や地域のニーズにも応えて幅広く対応し、近隣の医療機関とも連携して、必要に応じてそれぞれの分野の専門のドクターを紹介して患者様にとって最善の治療を受けて頂きたい、困ったことがあれば気軽に何でも相談してほしい。とお言葉をいただき、熱い想いの溢れるお話を伺うことができました。

クリニックの院内はとても綺麗な印象で、スタッフの皆様も明るく、元気を貰えるような空間と感ずることができました。治療をするだけでなく一人一人に向き合い、患者様のことを考え、親しみやすい空間や環境を作っておられ、こうした細かな心配りも患者様の満足度につながっているのだと感じられるクリニックでした。

富田先生お忙しい中お時間いただきまして、ありがとうございました。

(広報室 原田 涼平)

インタビュー

INTERVIEW

〇さん(69歳)

〇さんは2021年6月に後縦靭帯骨化症で手術され、リハビリ目的で当院入院されました。約3か月当院で懸命にリハビリに取り組み、ご自宅に11月中旬に退院され、現在一人暮らしをされておられます。



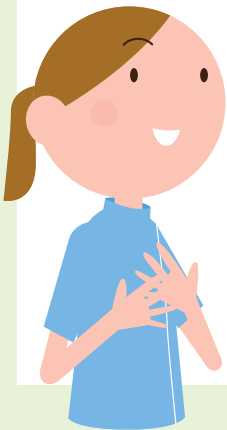
今回、退院後の生活について伺いました。

退院されてからはご家族様が毎日ご自宅へ訪問して下さり、お食事等身の回りのことを手伝って下さり、訪問看護、訪問リハビリも利用されておられます。ご自宅での生活を送っていかれる中でご自身でもリハビリを継続することが重要だと感じておられる、とのことでした。現在浴室の工事もすすめており、シャワー浴ができるように環境調整されているとのこと。今後も引き続き、自主練習を積み重ねトイレや入浴などご自身で行えるよう取り組んでいきたいと話して下さいました。

自主練習と訪問リハビリを続けていただき、ご自身の目標を達成できるよう応援しております。この度は貴重なお話をお聞かせいただき本当にありがとうございました。

自主練習と訪問リハビリを続けていただき、ご自身の目標を達成できるよう応援しております。この度は貴重なお話をお聞かせいただき本当にありがとうございました。

地域医療部 阿部 愛美



愛仁会高槻 訪問リハビリテーションだより

2020年にリハビリテーション病院を退院され、身体機能の維持・向上に努めている50代女性のKさんを紹介させて頂いた

Kさんは脳出血による左半身麻痺の為、当院でリハビリを行われ、ご自宅へ退院されました。ご自宅でお風呂に入るのをとても楽しみにされており、安全に入浴ができるよう週3回ヘルパーのサービスを利用することになりました。

入浴のときには、ご自身の力を活かしていただく為洗えるところは洗っていただき、ヘルパーはご自身で洗うことが難しいところや、立ち上がりや移動の際にふらつきがおきないように足を支える等の支援をしていました。浴槽に浸かったときには「やっぱり自宅でお風呂に入るとホッとするわ」と幸せそうにおっしゃられていました。

1年半程ヘルパーのみのサービスでしたが、爪の医療的ケアが必要となってきた為、同じフロアにある訪問看護と連携をとり、看護のサービスを開始することとなりました。



安心して自宅で入浴していただくために

ヘルパーステーション愛仁会高槻 浄住 みや子

その後も入浴のサービスは続けられていたが、少しずつ足のこわばりが出てきた為、立ち上がりに不安を感じるようになりました。少しでもご自身の力で安心してお風呂に入る事ができないかと、各専門職と話し合い、筋力の向上と移動動作の訓練を行う為、訪問リハビリを開始しました。ご本人はリハビリに対してとても意欲的に取り組まれ、安心してお風呂に入れるようになり、現在もリハビリに励んでおられます。

在宅生活を送られる上で、不安をお持ちの方はとても多いと思います。私たちヘルパーは日々の生活に一番近い存在として、他職種とも連携を図り、少しでも安心して在宅生活を過ごせるよう、その方に応じた支援をさせて頂いた